

山行報告書

北岳 (3,190 m) 南アルプス

日程 2021 年 12 月 27 日 (月) - 12 月 31 日 (金) 参加者 土橋 中山

全行程

27 日 (月) 16:00 北九州発 山陽道より新名神、新東名、中部横断道で奈良田温泉へ

28 日 (火) 6:00 奈良田登山口 (南アルプス林道) → 9:15 あるき沢橋 (義盛新道) → 12:50 池山小屋 → 14:40 城峰付近に幕営 夕食後、すぐに就寝。

29 日 (水) 1:30 起床 3:40 テント発 (城峰) → 4:50 森林限界 (砂払) → 5:45 ボーコン沢の頭 → 8:00 八本歯の科尔 → 9:10 山頂直下分岐 → 9:37 北岳山頂 (往路を下る) → 11:30 八本歯の科尔 → 12:40 ボーコン沢の頭 → 13:00 砂払 → 14:40 帰営

30 日 (木) 5:40 起床 6:50 テント発 (城峰) → 07:30 池山小屋 → 09:30 あるき沢橋 → 13:00 奈良田登山口着。入浴後ファミリーレストランで食事。高速で帰路へ

31 日 (金) 早朝 北九州到着

主要装備 テントカミナドーム 4 人用 (スノーフライ)、ザイル 7.8mm × 30m ガス 6 本分
その他厳冬期装備 土橋 26 kg 中山 20 kg

今年も槍ヶ岳は天候が厳しく登頂が見込めないため、岡村さんの助言により白峰三山縦走を計画。3 泊 4 日 + 予備日 1 日の行程で装備を整える。出発の数日前の予報では天気はまずまず、強風と大晦日からの寒波がきになるところだ。入山直前の予報では、連日晴れてはいるが、29 日の午前を除き、風速 20 m 以上の風予報となっていた。車内で打ち合わせの上、ピークハントを前提して、予報が変わり好条件であれば縦走も！などと臨機応変 (行き当たりばったりの) な計画に変更。

(入山初日) 天候晴れ 朝 6 時に入山。開運トンネルゲートを乗り越え暗いトンネル内を歩く、平坦な林道歩き、とにかく長い、途中で 1km を越えるトンネルも出てくる。およそ 12km の林道歩きを終わると、あるき沢橋のバス停に到着。

他のグループが二組いた。どちらも縦走の予定とのこと。僕らも縦走できるかもと期待する。善盛新道の急登にとりつくとながら厳冬期装備は関節に堪える。早めにアイゼンに履き替えゆっくりと高度を稼ぐ。途中池山小屋等にて、下山者より情報収集。撤退組が続いており、やはり予報どおり強風であると判断。午前中のピークハントに目標を変更。なるべく幕営地点の標高を上げ明日の登頂に備える。これも毎度のことながら炭水化物ばかりをたらふく食べる。僕 (中山) はお酒を飲まないため、宴会はせずに早めの就寝。思いのほか静かな夜だった。また、新しいテントのおかげで暖かく結露のない室内で過ごせた。

(2 日目) 天候晴れのち曇り 未明 1 時半に起床。朝食を摂り、3 時 40 分に出発。風は時折吹くものの静かでトレースの跡をゆっくりとすすむ。森林限界までにテントが数張りあった。森林限界を超えるとトレースがなくなっており、所々、予想外の膝下のラッセルを強いられる。もちろん踏み抜きもありだ。スピードが上がらず夜間行動ではあるが、視界がクリアでルートが分かりやすい。遠方に街や山小屋の光が見える。砂払を越えたところあたりから、少し風が吹き始め、ボーコン沢の頭を過ぎると夜が明け始めた。後ろを振

り返ると笠雲を帯びた富士山が見える。また、後続者のライトが見える。徐々に明るくなり始め、荘厳な世界が広がった。八本歯のコルまでの稜線に差し掛かると、雪煙をあげて強風が吹く抜ける。ラッセルが続き後続者(単独、二人組)に追いつかれた。先は良く分からないが5人いれば期待が持てる。八本歯のコルを降りる先行者を見ながら慎重にトラバースと下降を行う。ラッセルは長く続かず9時前に岩稜帯に出た。高度のせいか僕も土橋さんもペースが上がらず、最後の岩稜に取り付くと強烈な西風が吹き付け、頂稜に続く傾斜の緩い雪壁も緊張を強いられた。

9時37分に北岳の山頂に立つことができた。2人組に写真を撮ってもらい、謝意を述べる。この時期の山頂には長居は無用。午後からは風が強くなる予報。早速下山する。僕(中山)がルートを誤り15分程度のロス。分岐から少し下ったところで、2組の登山者とすれ違った。八本歯のコルを抜けた頃からどんどん風が強くなって行った。トレースは吹き飛ばされていた。台風並みの風に吹かれながら森林限界まで下ったときには大きな安心感があった。あとはトレースのついた道を下りテントまで辿りついた。登頂できたことに大いに満足しながら存分にガスを焚き夕食を摂った。この日の夜は猛烈な風が吹いた。

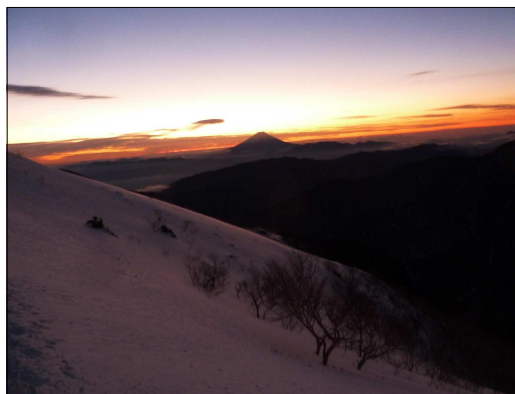
(3日目) 天候 曇り時々雪 4時40分に起床。起床時には風が強かったものの夜が明けるとつれてましになり、テント撤収時にはほとんど吹かず幸運だった。7時前に幕営地を後にする。標高を上げた分下りもきついと思いきや、9時半には歩き沢のバス停に出た。ただここからの林道下りがきつかった。氷結した道路が雪に覆われ、何度か転倒した。いやになるほど歩き続け、13時頃ようやく開運トンネルのゲートに到着した。下山後は奈良田温泉白根館(千円)で汗を流した。値段は高いが泉質も高い。疲れを十分に癒せた。



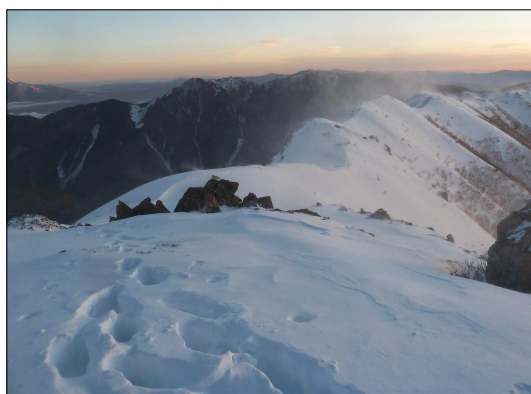
(厳冬の北岳山頂に立つ土橋、中山)



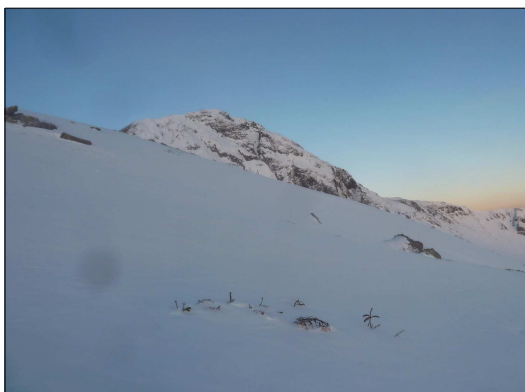
暗がりの中出発



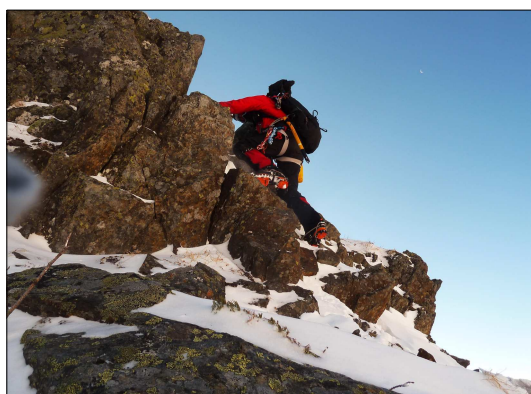
黎明の富士山



雪煙舞う吊尾根



雪原の奥に姿を現した北岳



八本歯のコルを下る



北岳が目前に迫る



一息入れる土橋さん



山頂標識と仙丈岳

(所感)

僕も土橋さんも厳冬期の3,000 m級の登頂は初めて経験でした。北九州からは遥か彼方、簡単にいける山ではありません。また、久保さん、岡村さんにアドバイスを受けながらも、ベテランリーダー不在の中、何とか2人で無事に山行を終えることができました。ボッカなどの地道なトレーニングも役立ったとは思いますが、何より、亡魂沢の頭の神様が微笑んでくれたのではとないかと感じました。

今回の反省点として、アタック時のワカン不所持、装備品の事前未使用と装備品のダブリ等、いろいろありますが、とりあえずは充実感に浸ります。

最後に同行して重たい荷物を背負っていただいた土橋さんに感謝したいと思います。良いお写真をいただきながらPCへの落とし方をしらず、掲載できませんでした。すみません。

2022年も良い年になりますように。

報告者 中山正浩